

# 倉橋先生を思う

山田徳兵衛

こんなことを書くのは礼を欠くことかと思うが——、わたくしの御懇意ねがった方の中で好男子だなと思った方が三人いる。

ひとりには慶応義塾の塾長時代の小泉信三先生であり、ひとりには倉橋惣三先生である。もうひよりは戦後存じ上げたのであるが、いま東横百貨店副社長の山本宗二氏である。

もつとも、お三人ともいわゆる好男子という言葉では当てはまらないので、立派な風采・容貌とでも申すべきであろう。その中で倉橋先生の特徴は、その福ぶくしさがなんともいわれぬ味のあるお顔であったことだ。

十年祭の特集号に原稿を依頼された時も、すぐにそのこ

やかなお顔つきが眼に浮んだのであった。

わたくしが、倉橋先生を存じ上げたのはいつのころであったかしら。古いことでよく思い出せないが、幼児教育の専門家であり、大家であられた先生とおもちゃや人形の世界に住むわたくしなのでいろいろな機会にいろいろな面でお会いし、お教えを受けた。その中でいちばん深くおつき合いをねがったのは、昭和三、四年ごろできた童宝美術院という団体の同人同志としてであった。こどもを対象とした美術あるいは工芸の向上を目的とした団体であって、故人になられた巖谷小波・和田英作・石井柏亭・山本鼎・津田信夫・西沢笛敵

という方がたなどととも、約十二、三年先生も活動して下さった。毎年々々日本橋の三越でそれらの公募展をひらいたが、それは第十回まで続いた。どの先生もそうであつたが、殊に倉橋先生が人形の審査をするお顔つきはまことにお楽しそうであつた。

ある年、この会で女学生製作の人形を募集して展覧会を開いたが、アマチュア製作の人形展はこれをはじめではあるまいかと思う。また、この団体の影響が、今日「日展」などの美術展へ人形の進出するひとつの動機をつくつたともいえるのである。この会の催しが児童文化財から、人形や玩具の芸術的向上にも及んだのであつた。倉橋先生がこんな面の功勞者でもあられることは、おそらく多くの方がたには御存じないかと思うのである。

井下清先生が東京市の公園課長として御活躍なさつていられたころ、市の児童に対する催しでも、よく先生とお会ひした。また、戦争が盛んになって、いろいろな団体が解散を命じられ、統合して日本少国民文化協会というものができたころは、部会はちがつても先生と同席することが多くなり、戦時下のシャッチョコバツタ顔つきの集まりで、先生の温顔は

ますます輝いて見えたものであつた。

きわめてわたくしごとの思い出を二つ記せば、先生が、たしか皇太子さまに童話をおきかせしたお札に頂戴したとか伺つた福助とオカメサンの一対の御所人形へ、わたくしがいささか苦心して服装をさせたことがある。かみしも、福助に、う、ち、か、け、姿のオカメサン。このお人形はさだめし今日も倉橋家に保存されていることであるう。

童話といえば、先生のナマリのない童話はすばらしかつた。小波先生と倉橋先生の童話はまさに江戸前童話であつた。

もうひとつのわたくしごと、それは奥様の御生家は日本橋大伝馬町の内田老鶴圃と承つていたが、実はわたくしが学校をおえて商業見習に半年ほど勤務した菊三という古い文房具問屋が、そのお店の筋向こうであつたのである。暫くたつてそれを伺つて、まことになつかしい思いをしたのであつた。

思い浮ぶまま書いたので妄言は多謝いたします。

(日本玩具及び人形連盟理事長)